

日坂小学校・東山口小学校統合準備委員会（第2回総務部会） 協議録

日時	令和7年8月1日(金) 19:00～20:36
場所	日坂地域生涯学習センター
出席者	委員 19名 事務局 学校再編係長、学校再編係主任、学校再編係事務員
内容	
■：委員会での検討内容	
1 開 会	
2 あいさつ（学校再編係長）	■ 前回の総務部会では、校名を変更するか否かについて、皆様からご意見をいただいた。また、教育委員会からも校名を変更することのメリット、デメリットについて説明させていただいた。着眼点の違いはあるものの、「環境が大きく変わる子どもたちのために、何をするべきなのか」という想いを共有できていると感じており、大変ありがたく思う。 ■ 話し合いの後半では、校名を変更すること以外にも新たな学校づくりを具現化する方法があるのではないかと、という意見もいただいた。現実性や実施主体の負担にも配慮した上で、子どもたちのために何をするべきなのか、本日の話し合いの中でお考えいただければと思う。
3 報告事項	
小小交流の様子について（学校から報告）	■ 日坂小学校と東山口小学校の交流事業は、今年で3年目を迎える。今年度からは回数を増やし、年間で各学年7回程度の交流事業を予定している。 ■ 3・4年生は合同で社会科見学に行った。また、4・5年生は栄中祭や自然教室を合同で実施した。行事を一緒に作り上げることで、これまで以上に踏み込んだ取り組みを行うことができた。 ■ 限られた時間の中で交流事業を行うため、教員同士の打ち合わせが欠かせない。子どもたちが良い環境で活動できるように、活動内容や教材、活動場所などに配慮している。 ■ 交流事業について、子どもたちにアンケートを実施した。「日坂小または、東山口小の友達と楽しく授業している。」との質問では、「よく当てはまる」「当てはまる」の割合が、日坂小学校では91.1%、東山口小学校では96%と肯定的な回答をした多くを占めた。交流事業では、子どもたちから「会えて嬉しい」「また会いたい」といった気持ちを感じられた。また、アンケートでは、人数が増えたことで「様々な視点から質問が出てきて良かった」「たくさん意見が出て嬉しい」という感想も寄せられていた。一方、「あまり当てはまらない」と答えた児童も、人数は少ないものの一部あった。アンケートでは、困ったこととして「どうやって話せばいいかわからない」「もっと仲良くなれるように話せば良かった」「意見をまとめることが難しかった」といった意見も寄せられた。しかし、これらの意見は、「もっと仲良くなりたい」「話を深めたい」といった気持ちの表れと捉えることもできる。 ■ 日坂小学校の子どもたちには、大人数の中でも意見をしっかりと話せる子がたくさんいた。自然教室では、東山口小学校の子どもたちから「日坂小学校の子からアドバイスを貰ったおかげで、キャンドルファイヤーの踊りが上手くできた」という感想が寄せられた。アンケート結果や子どもたちの様子から、一緒に学習することの良さが表れている。

- 今後は、上記のような子どもたちの声に寄り添いながら、両校の子どもたちが共に授業をつくり上げられるよう、関わり合いを深める工夫をするとともに、一緒に学ぶことでより良い学びにつながる授業づくりを進めていく。
- 東山口小学校では、1 学期の終業式で、日坂小学校との統合について子どもたちに説明した。今後は、両校で合同参観会の実施を予定している。また、小々交流の取り組みについて、学校だよりや e - じゃん掛川で情報発信している。

4 協議事項

(1) ワークショップ①：こんな統合になると素敵だな

<部会長>

- 前回の総務部会では、新しい学校づくりにつながる取り組みを実施したいという意見をいただいた。「統合にポジティブな理由を見つけない」「子どもたちを巻き込んで新しい学校づくりを行いたい」などの意見をいただき、子どもたちのために真剣に考えてくださっていると感じた。本日のワークショップでは、新たな学校づくりに向けて、具体的にどのような取り組みを行うべきか、ご意見をいただければと考えている。

<3 グループに分かれてのワークショップ>

<発表>

【グループ A】

- 3 地区が一つになれる統合を目指す。一緒になって良かったと思える統合にする。
- 子どもたちのことを考えず、大人の意見だけで決めない。
- 両校の子どもたちが同じスタートラインに立てる統合にしたい。また、子どもたちが大人になったときに思い出せるような統合にしたい。
- 登校することが楽しい学校をつくりたい。子どもたちが平等で、自由にのびのびと過ごせる環境にしたい。
- 多目的教室の設置や、教室外に荷物置き場を作るなど、教室空間の見直しを行う。
- 地域に根差し、住民が応援したくなる学校にしたい。住民と交流する機会や、地域の文化や伝統に触れる機会を設ける。また、子どもたちの自主性を育てる授業を行う。

【グループ B】

- 安心・安全で明るく過ごせる学校にしたい。
- 両校の良いところを取り入れた学校をつくりたい。平等で尊重し合える統合にしたい。
- 人数や学習内容が増え、やりたいこと・学びたいことに挑戦できる学習環境を整備する。
- 子どもたちと地区住民が交流できる学校にしたい。また、地域を学べる学校にしたい。

【グループ C】

- 「新しい学校をつくりたい」という意見が多く出た。
- 子どもたちの負担が少なく、誰ひとり泣かない統合にしたい。みんなが安心して登校できる学校をつくりたい。
- 楽しみも人数も増える統合にしたい。大人数の良さが実感できる学校にしたい。
- 学校を支援してくれる人を増やしたい。また、保護者のネットワークが増えると良い。
- 話題性を重視したい。少人数だから統合するのではなく、ポジティブな理由があって統合するということを発信していきたい。

(2) ワークショップ②：子どもたちが新たなスタートを切ることができる取り組みを考えよう
＜3グループに分かれてのワークショップ＞

＜発表＞

【グループ A】

- 子どもたち自身が考えて、新しい学校づくりを進めることが大切だと思う。保護者や教職員も協力するが、校章や校歌、校訓、マスコットキャラクター、教育環境など、様々な面で子どもたちが中心となって考え、楽しく進められると良い。
- 子どもたちが中心となって進めることで、学校に対する愛着が湧いたり、新しい仲間と一緒につくるワクワク感が生まれたりするのではないかな。

【グループ B】

- 保護者アンケートを実施し、意見の吸い上げを行ったら良いのではないかな。保護者の中には、統合に関する情報が行き届いていない人もいるのではないかな。「あの時に知っていればよかった」という不満を残してはいけない。
- 子どもたちの心のケアをしっかりとる。統合の前後で子どもたちが不安を抱えないように、子どもたちの変化に教員や保護者が気づけるように準備する。
- 教育設備の拡充を行う。エアコンを設置する。学校施設の改修が行えるように予算を組み、子どもたちが安心・安全に過ごせる環境を整備して欲しい。
- 行事や地域探求を通して、3地区と交流する。両校の文化や伝統を尊重した学校行事や活動を行って欲しい。
- 校歌を子どもたちの意見を踏まえて創り上げる。
- 地区に向けて進捗情報を発信し、必要に応じて意見聴取を行う。

【グループ C】

- 子どもたちの心のケアが大切。相談できる場を設けたり、教職員の配置に配慮したりしていただきたい。
- 子どもたちが楽しめるイベントを企画したい。例えば、新しいマスコットキャラクターを考えたり、東山口小学校で行っている「かがやきカード」（友達の良いところを書いて渡す）を統合後も継続して取り組んだりする。
- 地域教材を発掘する。例えば、日坂小学校で行っていた、わらじ製作を東山口小学校の子どもたちにも体験してもらおう。
- 統合を「見える化」する。体験通学や学校探検などを行い、不安要素を減らす。また、子どもたちが不安にならないように、保護者が明るいイメージを持って統合準備を行う。

＜部会長＞

- ワークショップを通して、新しい学校のイメージや、これまで考え付かなかったアイデアがたくさん出され、学校としても大変ありがたく感じている。
- 学校だけでは対応できないこともあるため、保護者や地域の方と一緒に新しい学校づくりを進めていきたいと考えている。次回の総務部会では、本日のワークショップで出た意見を基に、具体案について話し合いができればと思う。

(3) 事務連絡

- 次回開催予定：9月18日（木）19:00～ 東山口地域学習センター